

2016 年度事業・活動報告

はじめに

超少子高齢・経済格差拡大という今まで体験したことのない社会で、個人の権利や尊厳が損なわれることなく、誰もが自分らしく生きることのできる社会をめざす市民が資金をだし、運営する公益財団として「かながわ生き活き市民基金」は設立されました。超少子高齢社会の進捗で公的社会保障費の圧縮が政策化され、介護・子育て・障がい者・生きづらさを抱える若者・困窮にある人々など、公的支援から外れ、市場サービスに頼れないちょっとした支援の必要な市民を、隣人として支えあう市民活動が求められています。一人では担いきれない活動・事業は、おおぜいの市民の持つ資源（時間・労力・知恵・お金など）で担い合うことで点から面に広がっていきます。2016 年は、2 回の福祉たすけあい基金助成、事業指定助成エラベルの取り組みのほかに、研究会※、フォーラム※※などを通じて、地域の課題や地域活動の可視化と活性化に取り組んできました。税金や企業の CSR を財源とせず、1 か月 100 円の志ある寄付に賛同する 1 万 1 千人の市民や団体からの寄付による〈市民基金〉は、市民活動を支える重要な機能と実感する 1 年となりました。

※ マイクロクレジット研究&フードバンク研究（「非営利協同による社会的経済の促進に向けたマイクロクレジット研究会」）の実施。

※※ 経済的貧困だけではない、食・教育・経験・人間関係・コミュニケーションなど子どもの〈新しい貧困〉を知るフォーラム 3 箇所（逗子市 2/19、さがみ 3/19、港北区 4/16）の開催。

1. 事業報告

1) 寄付募集の推進

①福祉たすけあい基金への生活クラブ組合員の月 100 円寄付の合計金額は 13,285,900 円でした（前年比 100.6%）。取組人数は 4 月期首 11,253 人、3 月末 10,919 人と減少しています。（期首比 97%）。

第 6 期助成団体に対して福祉たすけあい基金取組の働きかけを行った結果、以下の 5 団体が寄付取組をスタートしています。

NPO 法人 ひだまりの森（第 6 期）	1,200 円
女性・市民コミュニティーバンク（第 6 期）	3,600 円
神奈川ワーカーズコレクティブ連合会(第 6 期)	1,200 円
NPO 法人 スマイルオブキッズ（第 6 期）	6,000 円
福島子ども・こらっせ神奈川（第 6 期）	12,000 円

②生活クラブ生協からの財団運営支援のための寄付は、2016 年 5 月、2017 年 3 月に 300 万円ずつ計 600 万円の寄付がありました。

③第 3 期事業指定プログラム「エラベル」は、3 団体が登録し、12 月～3 月に寄付募集活動を展開しました。合計寄付額は 1,437,276 円でした。

④子ども・若者の貧困に立ち向かうフォーラム開催を機に、団体寄付への取組を強めました。寄付者団体は以下の通りです。

神奈川県教職員組合	30,000 円
-----------	----------

日興テクノス株式会社	30,000 円
早川運輸株式会社	10,000 円
神奈川県地方自治研究センター	10,000 円
神奈川県地域労働文化事業団	100,000 円

<福祉たすけあい基金寄付金額>

	組合員	一般	合計
4 月	1,118,400	84,000	1,202,400
5 月	1,124,000	31,023	1,155,023
6 月	1,111,600	42,000	1,153,600
7 月	1,117,000	118,500	1,235,500
8 月	1,109,200	8,400	1,117,600
9 月	1,105,300	18,000	1,123,300
10 月	1,100,600		1,100,600
11 月	1,102,800	20,000	1,122,800
12 月	1,090,600	10,000	1,100,600
1 月	1,108,700		
2 月	1,095,100		
3 月	1,102,600	8,679	
合計	13,285,900	340,572	13,626,502

<一般寄付者詳細>

月	一般寄付者	一般寄付者内容
4 月	84,000	年間登録寄付者（4 月一括振替）
5 月	31,023	子ども・若者貧困活動への協賛
6 月	42,000	子ども・若者貧困活動への協賛
7 月	118,500	フォーラムでの当日寄付、協賛金
8 月	8,400	福祉たすけあい基金助成団体・外部からの寄付
9 月	18,000	福祉たすけあい基金助成団体からの寄付
10 月		
11 月	20,000	生活クラブ組合員
12 月	10,000	財団理事
1 月		
2 月		
3 月	8,679	生活クラブ組合員・生活クラブデポー
合計	340,572	

2) 助成事業

①第6期福祉たすけあい助成（選考7月・助成8月）、第7期福祉たすけあいスタート助成（選考2月・助成3月）を行いました。

②第3期「エラベル」の募集活動を行い、3団体から応募がありました。10月1日にプレゼンによる選考委員会を開催し、3団体全てを登録団体としました。エラベル寄付拡大を目的に12月17日にキックオフ集会を開催、12月1日～3月20日に寄付募集を行いました。第1期、2期への寄付者に加えて新たな寄付者の拡がりをつくることができましたが、「エラベル」のしくみ（寄付優遇税制）への理解・活用は広がっていません。目標達成団体は、フェアスタートサポート1団体にとどまりました。広報活動の見直し（ホームページ更新／関係団体との広報連携など）や寄付金のクレジット決済の見直し等を進め、第4期活動を準備します。

団体名	目標金額	寄付金額	助成額	寄付者人数	達成率
エンパワメントかながわ	1,200,000	446,700	379,695	78	37.2%
フェアスタートサポート	300,000	※499,000	※424,150	79	166.3%
アール・ド・ヴィーヴル	700,000	491,576	417,840	60	70.2%
合計	2,200,000	1,437,276	1,221,685	217	65.3%

※フェア・スタートサポートの寄付金額・助成額には、第2期エラベル寄付募集期間終了後（4月）に寄付のあった1万円（85% 8,500円の助成額）を含みます

③助成事業の広報活動

・第6期、7期福祉たすけあい基金募集チラシを作成し、神奈川県内の市民活動サポートセンター40か所に配架の手配をした他、生活クラブ生協ほか関係団体にチラシを配布し広く広報しました。

・神奈川県NPO情報サイトの「KaNaPioステーション」、公益事業コミュニティサイトのCANPANに助成情報を掲載しました。

・6月に福祉たすけあい基金助成金贈呈式を新横浜オルタナティブにて生活クラブ生協と共催で行いました。助成8団体と市民基金役員・評議員、寄付者、生活クラブ組合員計65名が参加しました。

・12月17日に第3期エラベルキックオフ集会&第7期福祉たすけあい基金贈呈式を、生活クラブと共催で開催しました。受賞7団体、エラベル登録3団体、生活クラブ組合員、市民基金関係者46名が参加しました。記念講演として、豊島子どもWAKUWAKUネットワークの天野敬子さんを招き「地域を変える 子どもが変わる 未来を変える ～人がつながる地域の居場所づくり～」というタイトルでお話いただきました。

3) 研究・セミナー事業

① 7月23日にユニコムプラザさがみはらにて「子ども・若者の貧困に立ち向かうキックオフ・フォーラム」を開催しました。基金関係者62名の他、一般からの参加者が81名、計143名の参加がありました。フォーラム報告集を作成し、財団関係者や地域フォーラム参加者に配布・活用しました（1000部）

② キックオフ・フォーラムを皮切りに、逗子市（2月）、相模原市（3月）、横浜市港北区（4月）で市民フォーラム実行委員会を形成、『子ども・若者の＜新しい貧困＞を知る』をテーマに市民フォーラムを開催しました。

フォーラム開催にあたり地域で活動している団体（子ども食堂、学習支援、居場所づくり、プレイパークなど）に積極的に呼びかけ、実際に地域での課題解決に取り組んでいる方たちの視点から、主な地域課題、課題解決の為に活動等の報告をしていただきました。地域の中での広がりをつくることや意志ある人を発掘することも市民フォーラム開催の目的としました。

※ 各地域フォーラムの開催概要は、巻末資料を参照

4) 広報事業

① 第5期・6期、福祉たすけあい基金の助成団体紹介、助成金額を掲載したブックレット「福祉たすけあい基金 Book Vol3・Vol4」を作成し、贈呈式参加者、基金関係者に配布しました（各500部）。

② 第3期エラベルのカタログ（2500部）、チラシ（15,000部）を作成し、エラベル寄付募集活動をすすめました。

③ 生活クラブ組合員向けのニュースとして「福祉たすけあい基金レポート2016」を62,270部作成し、11月に生活クラブの協力を得て、班個配の組合員全員に配布しました。

5) 福祉たすけあい基金に取り組む生活クラブ組合員への対応

・ 福祉たすけあい基金に取り組んでいる組合員全員に、福祉たすけあい基金領収書・基金レポート・エラベルチラシ等の送付を行いました。

6) マイクロクレジット研究会とフードバンク検討会

・ 県内の協同組合・労働者福祉協議会・市民団体に呼びかけ、2015年9月に設置した「非営利協同によるマイクロクレジット研究会」は今年度も引き続き開催、2016年9月に研究会のまとめを行いました。研究会からはフードバンクの検討を提言しました。

・ 研究会報告を500部作成し、参加団体に配布しました（ホームページ掲載も行いました）。

・ 研究会からの提言「神奈川県に非営利協同の連帯でフードバンクをつくろう」を受け11月に設置された「フードバンク検討会」に参加しました。

2. 法人運営

1) 機関会議運営

①理事会・定例理事会を5月、7月、9月、11月、1月、3月に開催しました。各理事会の主な議決事項は以下の通りです。

	主な議決事項
第1回（5月度理事会） 5月14日開催	①2016年度定時評議員会議案の決定 ②助成事業の選考に関する規程の一部変更及び選考部会メンバーの選出 ③贈呈式・交流企画の承認

第2回（7月度理事会） 7月30日開催	①第6期福祉たすけあい基金選考結果の承認 ②2016年度臨時評議員会並びに2017年度定時評議員会開催日程の承認 ③事業指定プログラム「エラベル」2015年度活動総括の承認並びに2016年度取組み方針の決定
第3回（9月度理事会） 9月10日開催	①「第2期福祉たすけあい基金スタート助成」取組み方針と募集要項の承認 ②財団の下期の活動計画と「2016年度寄付月間」の活動
第4回（11月度理事会） 11月26日開催	①2016年度上期事業報告・決算の承認並びに下期対策 ※中間監査報告 ②第3期エラベル登録団体選考結果報告と実施計画・予算の承認 ③福祉たすけあい基金取組組合員への領収書等発行に係る予算承認
第5回（1月度理事会） 1月14日開催	①2016年度臨時評議員会議案の決定（第1次案） ②2016年度第1回臨時評議員会開催要項 ③役員・評議員の解散に向けた対応
第6回（3月度理事会）	①2016年度臨時評議員会の決定 ②役員候補・評議員候補推薦委員会の設置並びに役員・評議員選出方針の承認 ③第7期福祉たすけあい基金助成結果の承認 ④第8期福祉たすけあい基金募集要項並びにチャートの承認

②定時評議員会・臨時評議員会の開催

定時評議員会	◇開催日時 : 2016年6月4日（土）10:00～11:00 ◇評議員出席状況 : 評議員15名出席（26名中） ◇議決事項 ・2015年度事業報告・決算報告 ・評議員・理事の選出（補充選出）
臨時評議員会	◇開催日時 : 2017年3月18日（土）10:00～10:55 ◇評議員出席状況 : 評議員19名出席（25名中） ◇議決事項 ・2017年度事業計画の承認 ・2017年度収支予算の承認 ・資金調達及び設備投資の見込みの承認

③参加状況

・理事会

	5月度理事会	7月度理事会	9月度理事会	11月度理事会
理事	16/22	15/22	18/22	14/22

監事	2/3	1/3	2/3	3/3
	1月度理事会	3月度理事会		
理事	17/22	17/22		
監事	2/3	2/3		

・評議員会

	定時評議員会	臨時評議員会
評議員	15/26	19/25

2) 関連団体との連携

①行政

- ・7月に神奈川県 NPO 協働推進課、県民局次世代育成部・子ども家庭課を訪問、子ども・若者の貧困問題への取り組みについて意見交換を行いました。
- ・9月に開催された神奈川県 NPO 協働推進課主催の学習会に事務局が参加し、事業指定プログラム「エラベル」の紹介をしました。

②他団体との連携

- ・日本NPOセンター、公益法人協会の共催フォーラム「2つの非営利法人制度のあり方を考えるフォーラム in 神奈川」にパネラーとして参加しました。(9/12)
- ・経済界、メディア、NPO、行政が連携して設置する寄付月間推進委員会への賛同パートナーとして登録しました。12月を集中寄付月間とする「Giving December」にて他登録団体と連携して寄付活動に取り組みました。

3) 神奈川県立ち入り検査への対応

- ①公益法人法で定められている、立入検査を受けました(7月20日)。総務局組織人材部文書課職員(3名)による立ち入り検査が実施され、助成事業、経理、法人運営それぞれの検査を受けました。組織運営に関して幾つか指摘がありましたが、概ね適正運営との講評でした。

以上